

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
権利擁護と成年後見制度		必修 (社.精) 選択 (心)	2	2.3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
田村 正人	B308	masato.tamura	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p><目的> ソーシャルワーク実践において中心的な価値である、人権尊重と尊厳の確保について、権利擁護の視座から実践と憲法をはじめ法との関係について学び理解することを目的とする。</p> <p><概要> 権利擁護の基本的な考え方と、実践の手段のひとつである成年後見制度についてテキストを中心とした講義と、事例を通して具体的なイメージがもてるように分かりやすく解説をする。</p>				
学習上の助言	法律に関する基礎知識が必須となる。専門用語、概念等についてテキストによる予習を行い受講することが望ましい。				
教科書	新・社会福祉士養成講座「権利擁護と成年後見制度」第4版/編:会福祉士養成講座編集委員会/中央法規出版				
参考書	政府発表資料、参考図書など講義内で指示する。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	基本的人権について理解し、説明することができる。			HSU(1)、(2)、WP(1)	
②	権利擁護の理念とソーシャルワークにおける必要性を理解し、説明することができる。			HSU(1)、(2)、(5)、WP(1)~(3)	
③	権利擁護に係わる憲法をはじめ法体系についての基本を理解し説明することができる。			HSU(2)、(5)、(6)	
④	成年後見制度、日常生活自立支援事業の趣旨、制度内容を理解し説明することができる。			HSU(2)、(3)、WP(2)、(3)	
⑤	成年後見制度における社会福祉士の役割について理解し説明することができる。			HSU(2)~(4)、WP(1)、(2)	
⑥	権利擁護の実践についての基本的な知識、技術を理解し説明することができる。			HSU(2)、(5)、(6)、WP(1)~(4)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション (授業の進め方、評価等についての説明、学習方法について理解する。) 相談援助活動において想定される法律問題について理解する。(第1章 第1節)	講義	シラバスを精読し講義概要、評価方法等を理解する。	4	
2	ソーシャルワークにおける権利擁護の実践について学ぶ。(高齢者虐待)(第8章第2節)	講義	予習: 該当範囲を読む。 課題: 虐待対応の要点	4	
3	ソーシャルワークにおける権利擁護の実践について学ぶ。(児童虐待)(第8章第1節)	講義	予習: 該当範囲を読む。 課題: 児童虐待対応の要点	4	
4	ソーシャルワークにおける権利擁護の実践について学ぶ。(多問題重複ケース)(第8章第6節)	講義	予習: 該当範囲を読む。 課題: 権利擁護実践の要点	4	
5	日本国憲法を中心に基本的人権について学ぶ。(第1章 第1、2節)	講義	予習: 該当範囲を読む。 課題: 基本的人権の尊重の要点	4	
6	行政に関する法律「行政法」と行政裁量について学ぶ。(第1章 第3節)	講義	予習: 該当範囲を読む。 課題: 行政裁量について	4	
7	民法(権利能力の視点から総則、物件・債権、契約、親族)について学ぶ。(第1章第4節)	講義	予習: 該当範囲を読む。 課題: 権利能力について	4	
8	社会福祉関連法と成年後見制度(制度の概要、類型、申立の流れ)について学ぶ。(第1章第5節、第2章1、2、3、4節)	講義	予習: 該当範囲を読む。 課題: 成年後見制度の概要	4	
9	成年後見制度(任意後見制度、成年後見人等の義務と責任、最近の同行と課題)について学ぶ。(第2章第5、6、7節)	講義	予習: 該当範囲を読む。 課題: 成年後見人の役割	4	
10	成年後見活動の実際について事例をもとに考える。(第7章第1、2節)	講義	予習: 該当範囲を読む。 課題: 高齢者への権利擁護	4	
11	成年後見活動の実際について事例をもとに考える。(第7章第3、4節)	講義	予習: 該当範囲を読む。 課題: 障害児・者の権利擁護	4	
12	日常生活自立支援事業、成年後見制度利用支援事業について学ぶ。(第3章第1、2節 第4章第1、2節)	講義	予習: 該当範囲を読む。 課題: 制度の趣旨について	4	
13	権利擁護にかかわる組織・団体の役割を理解する。(第5章 第1~5節)	講義	予習: 該当範囲を読む。 課題: 組織・団体の整理	4	
14	権利擁護に関わる専門職の役割と社会福祉士との協働について理解する。(第6章 第1~5節)	講義	予習: 該当範囲を読む。 課題: 他職種との協働について	4	
15	成年後見制度のこれからと社会福祉士の役割 なぜ社会福祉士が成年後見制度を担うのかについて考える。	講義	予習: 該当範囲を読む。 これまでの講義を振り返る	4	
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照する。				

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		50	30	0	0	20	
総合 力 指 標	知識・技術力	30	10	0	0	0	40
	思考・推論・創造する力	10	10	0	0	10	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	10	0	0	0	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	講義で学んだ知識を確認する。 試験範囲は講義で用いた教科書、配布プリント及び資料から出題をする。講義内容の予習・復習を行い知識の定着が必要となる。 ・試験形式（筆記試験）				試験解答例を研究室入口および Teams 上に提示する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
レポート	①	✓	9 回目の講義でレポート課題を出す。レポートでは学生が学んだことの理解度を確認、評価する（1000 字程度） *テーマ「成年後見制度と社会福祉士に期待される役割について」 *レポート課題の詳細については出題時に説明する				添削して返却する
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤	✓					
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	講義内容の理解を深めるために、講義のテーマに応じた課題を講義中に出題し、課題への取り組み内容について評価する。また毎回の講義でリアクションペーパーに講義の感想と質問を記載して提出する。内容から講義内容の理解や取り組み姿勢について確認、評価をする。				講義で提出した課題については、評価を記載して次回講義で返却する。また、質問事項の記載があれば次回講義中に説明を行いクラスで共有する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
備 考							
<p>【履修についての条件】</p> <p>*社会福祉士、精神保健福祉士国家試験受験を希望する者は必ず履修すること。</p> <p>【受講する際の注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は登校型授業であるため、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。また感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。その場合、授業は欠席として取り扱う ・今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更があり得る。 ・シラバス内容を講義の進行状況によって変更することがありえる。 ・授業中の私語やスマートフォン等の電子機器類の使用は禁止する。 ・受講態度に問題がある場合、注意しても守れない学生については退室をしてもらう。 <p>教員の実務経験：社会福祉士取得後 8 年の実務経験。</p> <p>実践的授業の内容：テキストの項目やシラバスの内容に沿って、教員が実践してきた事例（個人を特定できないよう加工）を用いたり、実践内容をソーシャルワークの基本に当てはめたりして説明することで、学生がより科目内容を具体的に学ぶことができるように学習を進める。</p>							